

米山奨学委員会
委員長

村橋 義晃

(大阪中之島RC)



米山奨学事業は、創設から半世紀以上の歴史を持つ、日本のロータリー独自の奨学制度であり、事業創設の原点は、外国人留学生の支援を行なう奨学事業を通じて、世界に“平和日本”の理解を促す事が創設時の願いでありました。

現在も創設時の理念を基に外国人留学生の支援と交流を通じて、国を超えた絆や信頼関係を築き、20年30年後の実りを願い、一人ひとりの胸に世界平和を願う“心”を世界中に植える“植樹”の様な奉仕事業を行なっています。

民間団体が行なう奨学事業としては、奨学生総数、奨学金の総額からみても世界に誇るべき事業規模であり、又、宗教や思想の強要が無い素晴らしい奨学制度であります。

米山奨学事業の目的が「平和と国際理解の推進」を実現する国際親善奉仕活動であることを理解し、活動を通じて交流する奨学生が、生活習慣が異なる異文化で育ってきた外国人留学生であることを十分に承知しておく事が大切であると思います。

しかし、半世紀の時を経て世界情勢や取り巻く環境も変化し、奨学制度のあり方も貧窮救済支援型から知的国際貢献型に変化してきており、この

事業の捉え方にも様々な形が生じ、支援する立場の方々の心情も微妙に変化してきていると思います。

ロータリーにも進化が求められる様に奉仕事業も時代の変化に適合する柔軟な姿勢が求められます。このような時こそあらためて事業創設の原点を再認識する必要がある様に思います。

我々、ロータリアンが忘れてならないのは、奉仕事業の根本は見返りを求めないことではないでしょうか。見返りを求める気持ちが批判的な気持ちに変貌し、素晴らしい奉仕事業の妨げになっていないでしょうか。

日本の良き理解者を育てるという極めて結果が掴み難い、息の長い奉仕事業であります。ロータリアンとして、この奉仕事業を高い視点と長い目で捉え、寛容な精神をもって活動を続ける事が、この素晴らしい奉仕事業を成功に導いてくれるものと信じております。